



高齢化社会を迎え、当院でも認知機能障害を抱えながら入院する方が増えています。医療の現場ではマスクを付けて業務を行いますが、認知機能障害を抱える方にとっては皆同じ顔に写ってしまい、入院という非日常生活の中で不安になる要因の1つになります。けれども、感染から患者を守る対策として、マスクを外すことは困難な状況だと思います。その中で、私達医療者が患者様に携わるときに大事にしなければならないのは患者様の尊厳を保つ姿勢だと思います。患者様との関わりの1つ1つを丁寧に積み重ねていくことで信頼関係が築かれ安心感が生まれます。「ここにいていいんだ」と思ってもらえるようなケアを続けていけるように、パーソン・センタード・ケアがありますのでご紹介します。

パーソン・センタード・ケアとは「その人・一人ひとりの視点や立場に立って理解しながらケアを行う」(トム・キッドウッド教授提唱)という認知症ケアの考え方の一つです。その人の生活歴や習慣、趣味や性格などの背景に着目し支援することで、悪化しているように見える認知症の症状も改善できるかも知れないという考え方です。認知症の方が「何を必要としているのか」「何を求めているのか」といった「心理的ニーズ」を理解することが重要となります。認知症の方が自らの意思を発することは様々な障害から難しいかもしれませんが、しかし、「なぜできないのか」「どうしてこちらの意にそぐわない言動があらわれるのか」をケアする側が理解し、相手に求めているニーズを理解することでケアの質が向上すると考えます。認知症の人のよくない状態が認知症の人のよい状態に変われるように、そしてよい状態が維持できるよう支援していきましょう。



## 認知症の人のよい状態のサイン

- 表現できること
- ゆったりしていること
- 創造的な自己表現
- 愛情を示すこと
- 喜びの表現
- 周囲の人に対する思いやり
- 人に何かをしてあげようとする
- 自分から社会に接触すること
- 自尊心(汚れ、乱れを気にする)
- あらゆる種類の感情を表現すること



トム・キッドウッドは、認知症の人が一人の人として無条件に尊重されることを中心に「くつろぎ」「自分らしさ」「愛着・結びつき」「共にあること」「たずさわること」というニーズが重要と唱えています

### くつろぎ(やすらぎ)のニーズ

個人の価値を低める行為	個人の価値を高める行為
怖がらせること	思いやり(優しさ、温かさ)
後回しにすること	包み込むこと
急がせること	リラックスできるペース

### 共にあることのニーズ

個人の価値を低める行為	個人の価値を高める行為
差別すること	個性を認めること
無視すること	共にあること
のけ者にすること	一員として感じられるようにすること
あざけること	一緒に楽しむこと

### 自分らしさのニーズ

子ども扱いすること	尊敬すること
好ましくない区分け(レッテル張り)をすること	受け容れること
侮辱すること	喜びあうこと

### たずさわることのニーズ

能力を使わせないこと	能力を発揮できるようにすること
強制すること	必要とされる支援をすること
中断させること	関わりを継続できるようにすること
物扱いすること	共に行うこと

## 認知症の人のよくない状態のサイン

- 悲しい時やがっかりしている時にほったらかしにされている状態
- 強度の怒り
- 不安
- 恐怖
- 退屈
- 身体的な不快感
- 動揺、興奮
- 無関心、無感動
- 引きこもり
- 体の緊張こわばり
- 力のある他者に抵抗することが困難



### 愛着・結びつきのニーズ

非難すること	尊重すること
騙したり、欺くこと	誠実であること
わかろうとしないこと	共感をもってわかろうとすること

参考資料: パーソン・センタード・ケア: 鈴木みずえ監修